

家庭菜園相談室

今月のテーマ

煮ても焼いてもおいしい 甘長トウガラシをつくってみよう



管内で栽培された伏見甘長トウガラシは、「甘長ヒーマン」という商品名で出荷されています。

図1 作型目安

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
伏見甘長	●	—	—	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■	■ ■ ■

● 植付け ■ 収穫

栽培のポイント

- トウガラシは、ナス科の植物のため、前作にジャガイモ・トマト・ナスなど作付けが3年以上ない畑を選定します。
- 高温性で育苗時から定植後にかけて低温に遭うと育ちが悪くなるため、十分に暖かくなってから植え付けます。
- 夏の暑さには強く、霜が降りるころまで収穫できます。
- 枝が細いため風には弱く、果実がたくさん付くと枝が折れやすいため、支柱を立てて誘引します。
- 肥料切れに注意します。また、土が乾燥しないように水やりをしましょう。日当たりがいいところを選ぶことも大切です。

畑の準備：植付けの2～3週間前に完熟堆肥1[※]㎡/㎡と苦土石灰100^g㎡/㎡を土とよく混和します。

植付けの1週間前に化成肥料（8-8-8）100^g㎡/㎡と油粕100^g㎡/㎡を施します。

栽植密度：畝幅90^{cm}、株間45^{cm}、畝高10～20^{cm}（水はけの悪い畑では高畝にします）。

植付け：初めて栽培するときは、苗を購入して植えましょう。植付けの2～3日前から畝に十分水をやり、マルチを畝の前面に覆って土を温めておきます。マルチにカッターナイフ等で十字に切り目を入れ、切り目を開いて苗を植え付けます。5月上旬までは霜の危険があるため、苗帽子等を被せます。

支柱誘引：トウガラシは枝が弱く風で折れたり、倒れたりしやすいため、植付け後速やかに仮支柱を立てます。仕立て方は、V字仕立てや3本仕立て等がありますが、1本仕立てが最も簡単です。下の方から出るわき芽はすべてかき取ります。

誘引は苗1本ごとに支柱を立て、最も伸びた枝を固定していきます。茎が太くなるようにゆとりを持たせて8の字に縛ります。苗を定植してから1カ月くらい経過すると花が咲き始めます。トウガラシは、1つの花にめしべとおしべを持った両性花。そのまま何もなくても実は大きくなっていくので、人工授粉する必要はありません。

追肥：1回目は花が盛んに咲き始めた頃、化成肥料（8-8-8）を1本に10^gマルチの穴に施します。

2回目は収穫初めの時期に、1回目と同じように施します。

3回目以降は2回目のあと15～20日後、草勢をみながらマルチをめくって株の周りに化成肥料（8-8-8）を15～20^gくらい追肥します。

管理：収穫最盛期には水分を多く必要としますが、畝間に水がたまる病気になりやすいので注意してください。たくさん実が付き過ぎると、木が弱ってしまうので、早めに収穫するようにします。

収穫：甘長トウガラシは、未熟な実を収穫する野菜なので、実の長さが7～10^{cm}くらいで緑色のうちに収穫します。甘長トウガラシは収穫時期がとても長く、次から次へと花が咲くので、早取りして株が疲れないうまく育てると100個以上収穫が可能です。

表 トウガラシ類に登録のある薬剤

農薬名	適用病害虫名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数
アドマイヤー顆粒水和剤	アブラムシ類・アザミウマ類	5,000～10,000倍	100～300 ^{ml} /10 [㎡]	収穫前日まで	2回以内
モスピラン顆粒水溶剤	アブラムシ類	8,000倍	100～300 ^{ml} /10 [㎡]	収穫前日まで	2回以内